

事務事業評価表

平成14年度	主要事業計画対象の有無	無	電話	042(769)8229
担当部課名	市民部	交通安全	課	
事務事業名	交通安全教室経費		事業コード	23210

1 総合計画における位置づけ

政策名	第3章	安全に暮らせる都市の実現をめざします	事業開始年度
基本施策名	第2節	安心して暮らせるまちづくり	~63 年度
施策名	第1施策	交通事故のないまちづくり	

2 実施根拠及び関連法令等

市交通安全指導員設置要綱

3 事業概要

(1) 事業の目的		(2) 対象(誰、何)	
交通安全指導員が、保育園、幼稚園、小中学校、PTA、自治会等に対して、自転車の正しい乗り方、信号機の見方、街頭指導旗の振り方等を指導し、交通事故の減少に努める。		児童等・保護者・高齢者等	
		対象数	延べ参加者 23,271人
(3) 平成13年度事業の内容		(4) 総合計画・実施計画における概要	
申込みにより、希望場所において、横断の仕方、自転車の乗り方の指導、交通安全映画の上映、ダミー人形を用いた自動車巻き込み実験等を行い、交通安全意識の高揚を図るとともに、正しい知識の普及を図った。 開催日時 土・日・祝日及び火曜日を除く平日 内 容 講話、歩行実技、自転車実技、映画上映、ダミー実験 指導員 交通安全指導員(元警察官) 6名(非常勤特別職職員) (勤務日数 月14日 勤務時間 午前9時から午後5時まで 報酬月額 140,200円)		交通安全教育の実施	
		(5) 個別計画の概要	
		計画名	
		計画年次	年度~ 年度

4 評価指標

指標名	事故減少率	交通安全教室参加人数の前年度比
指標式	$100 - (\text{今年度事故件数} / \text{前年度事故件数}) * 100$	$\text{今年度教室参加人数} / \text{前年度教室参加人数} * 100$
指標設定の意図	目標が事故のないまちづくりを目指すため	交通安全教育の浸透率を出すため

5 目標と実績

[金額単位：千円]

	平成11年度	平成12年度	平成13年度(評価対象年度)		平成14年度	
	実績	実績	実績	目標	目標	
指標	-4	-6	a 2	b 1	7	
指標	107	105	c 100	d 100	100	
指標			e	f		
事業費	決算(予算)額	13,436	14,955	12,719	13,833	12,245
	人員・時間数	(0.15人)	(0.15人)	(0.15人)	(0.15人)	(0.15人)
	人件費	1,263	1,263	1,263	1,263	1,263
	その他経費	0	0	0	0	0
	合計	14,699	16,218	13,982	15,096	13,508
特定財源	0	0	0	0	0	

6 個別評価

(1)達成度…目標をどれだけ達成したか			
評価 A ▼	A : 達成している (100%)	= 、 、 の平均値 = 150.0%	
	B : 一部達成していない(100%> 80%)		
	C : 達成していない (80%>)		
$\frac{a}{b} = \frac{2.0}{1.0} \times 100 = 200.0\%$	$\frac{c}{d} = \frac{100.0}{100.0} \times 100 = 100.0\%$	$\frac{e}{f} \times 100 =$	
理由 :	平成13年度開催回数188回、参加人数22,910人という大勢の方々に、交通安全教室を開催した。		

(2)必要性…時代変化に適応した事業内容か			
評価 A ▼	A : 適応している	理由 :	交通事故が増えている中で、ますますの充実が必要。
	B : 一部適応していない		
	C : 適応していない		

(3)経済性・効率性…費用対効果は妥当か			
評価 B ▼	A : 妥当である	理由 :	交通安全指導員3人1組の2班体制でおこなっているが、自主事業を開催するなど、指導員の稼働率を上げる必要がある。
	B : 一部妥当でない		
	C : 妥当でない		

(4)事業の代替性…県、民間との役割分担のあり方から見て、市が実施していくことが適当か			
評価 A ▼	A : 代替の可能性ない	理由 :	交通事故が増加している中では、交通安全施設などのハード面の整備だけではなく、交通安全教室などのソフト面も市が行っていくべきである。
	B : 代替の可能性低い		
	C : 代替の可能性高い		

(5)市民満足度…対象市民の満足は得られているか			
評価 B ▼	A : 満足できる	理由 :	交通ルールを学ぶことにマンネリという言葉は合わないが、改善できる点はあると思われる。
	B : 一部満足できない		
	C : 満足できない		

(6)有効性…当該事業は上位の施策を実現する上で有効か			
評価 A ▼	A : 有効である	理由 :	児童や幼児、その保護者、高齢者に交通ルールをしっかりと学んでいただくことは、交通事故をなくすことにとっても重要である。
	B : 一部有効である		
	C : 有効でない		

<p>評価バランスチャート</p>	<p>成果向上の余地</p> <input checked="" type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> ない	<p>説明 :</p> こちらから鹿沼児童交通公園等に出向いたり、市内をパトロールするなど、自主事業を積極的に開催する。
	<p>コスト改善余地</p> <input type="checkbox"/> ある <input checked="" type="checkbox"/> ない	<p>説明 :</p>

7 総合評価

評価 AA ▼	他自治体の類似事業との比較	平成13年度開催実績	相模原市	208回	23,271人
		平成12年度開催実績(参考)	相模原市	196回	23,227人
今後の進め方		横浜市	205回	37,729人	
<input checked="" type="checkbox"/>	継続	横須賀市	93回	9,384人	
<input type="checkbox"/>	見直し	厚木市	70回	10,253人	
<input type="checkbox"/>	廃止	大和市	104回	14,629人	
<input type="checkbox"/>	完了	説明 交通事故が増加している中では、交通安全施設などのハード面の整備だけではなく、交通安全教室などのソフト面も市が行っていくべきである。			

8 二次評価における変更点

--